機関リポジトリの導入戦略

広島大学図書館学術情報リポジトリ主担当

尾崎　文代
上田　大輔

平成20年度学術ポータル担当者研修　2008.7/23-25・8/27-29

お話しすること

「導入」≠「公開までの時期の話」

機関リポジトリの枠組み（コンセプト）作り

について

- なぜリポジトリを作るのか
- 初期構築に必要なもの
- 継続運営への課題

HiR（広島大学学術情報リポジトリ）の経緯

2004年	「学術情報の発信とアーカイブ化WG」で、 図書館がリポジトリを構築することを提案・承認
2005年	**大学の承認**・CSI事業受託。 館内委員会でシステム・合意・コンテンツを分担。 さらに専任チームでコンテンツかき集め。
2006年	専任担当係設置。 試験公開から正式公開へ。 博士論文依頼行脚。運用指針策定。
2007年	アドバイザ制度設立。 講演会開催。 （広島県大学共同リポジトリ構築）
2008年	そしてコンテンツ集めは続く・・・。

なぜリポジトリをつくるのか

- 自学研究成果の発信
- オープンアクセスの基盤づくり
- 学術雑誌価格高騰への著者の立場から対抗
- 大学の説明責任の履行
- 大学の知名度向上
- 時流に乗り遅れないためなのか？（国策か？）
- 予算がついたからなのか？

リポジトリで何を実現するのか

コンテンツ収集方針

何を集めるのか？

紀要・ジャーナル論文・科研費報告書
博士論文・教材　その他

他大学の事例や“重点コンテンツ”も気になるが、

それぞれの大学で決めるのが基本。
機関リポジトリで何を実現したいのかに関わる。

HiR で実現したいこと

- 入手困難な資料を入手可能に。
- 埋もれている資料を表舞台に。
- 消えていく資料の保存を。
- 書誌情報だけというストレスを解消。

広島大学でしか集められないものを集める

- オープンアクセスの基盤を作る。

初期構築に必要なもの

- 学内合意・オーソライズ
- 運営体制
- 予算の獲得（システム）
- 広報
- コンテンツ収集のためのアプローチ

導入時の大学内コンセンサス（アンケート）

- あり　(21)

  学内予算が絡むと必要になる

- なし　(6)

  運用の確立を優先し、成果を挙げてから承認へ

某大の例：

実験の位置づけで設置を優先、コンテンツ・認知度が集まった時点で運用指針を策定して理事まわり。

事業デザインが担当者の自由にでき、理事まわりの時点では既に意義を認知されていたので賛同を得るのが楽だった。

学内合意を得る

- 大学としてのメリットを強調する

-大学の研究活動成果の固定と保存

-研究機関としての知名度向上

-社会への説明責任の履行

-大学ブランドの確立

- 権威のありそうなものはなんでも使う

-学術情報基盤の今後の在り方について（報告）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015/020.pdf

-第3期科学技術基本計画
http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/06032816/001/001.pdf

-大学中期目標・中期計画

図書館内の合意を得る

- 大学としてのメリット
- 図書館としてのメリットを強調する

  -大学の情報発信に一役買う

  -図書館の存在価値の向上

- 図書館長・委員には広報をお願いする

  -館長・委員の論文は最優先で登録して実感してもらう

大学上層部の反応（アンケート）

- 好意的　(10)
- 無反応　(4)
- どんな反応だったか知らない (4)
- 反対　(1)
- その他 (6)
  -時代の流れだから･･･
  -業績DBと登録が重複しないように、という条件付き
  （しかし、そのおかげで連携ができた）

大半は無関心

- いいことだけど、お金はない。図書館でどうぞ。
- 基本的な意義は認めるが、自ら積極的に利用・推進したい教員はほとんどいない。
- 最近になって「協力的」というより「無関心」だったことがわかってきた。
- 未知の領域なので反応がなかった。
- 承認・全学説明会後、リポジトリという（耳慣れない）言葉だけは知っている教員がほとんど。

承認はスムーズでも、普及には骨が折れる。
トップダウン　→　ボトムアップ

学内・館内合意の工夫・苦労（アンケート）

- ある程度成果が出たところで中期目標に加えて学内合意へ。
- 館長にダウンロード数を通知。
- 上層部がジャーナル論文の登録に否定的だったので、従来の電子図書館の延長から始めた。
- 専門用語が通じず反応がなかった。
- 学内インセンティブ、業績データベースとの関わりで抵抗があった。
- 文科省・他大学の事例をあげた。
- 相互利用等、利用者サイドからのメリットも強調した。

導入時の運営体制（アンケート）

- **ある係が兼任**(16)
- **ワーキンググループやチームを新設**(14)

  -電子図書館係が兼任し他の図書館員でWG

  -担当係を中心に各分館のWG

  -委員会7名+作業チーム5名。チームは4ヶ月間専任し、通常業務にアルバイトを充てた。その後専任。
- **その他**(1)

  -紀要・博士論文の電子化担当が業務の延長線上で担当した。

今後の運営体制（アンケート）

- **ある係が兼任** (17)

  -IRには目録・雑誌・ILLと他面があるので、できれば全係に広めたい。分館にも振り分けたい。

  -専任が望ましいが難しい。

  -小規模なので業務の延長上でできるだろう。

- **ワーキンググループやチームが行う** (6)

  -係を中心にワーキンググループが協力する。

- **ある係が専任** (2)

  -専任は死守したい。

- **その他** (2)

  -領域2はワーキング形式。

チームか専任か

チーム	○	連帯感が生まれる
	×	責任の所在があいまいになりがち
専任	○	人手がかけられる
	×	係以外（管理職含）が無関心になる

導入時、教員との連携（アンケート）

- **行った** (20)
  -検討委員会･諮問機関の設置
  -紀要編集委員会

- **行っていない** (7)

教員との連携（アンケート）

よかったこと

- 初期コンテンツの収集につながった。
- 人脈が広がり、味方ができた。
- 評価・収集方法等貴重な意見を聞けた。

苦労したこと

- 理解の度合いがバラバラでコンテンツ収集方針が決まらない。
- 大人数なので意思統一を図るのが難しい、というより無理。
- 継続的なコンテンツ収集には結びつかなかった。

連携のタイミング

- 当初から
  構築の理念・コンテンツ収集方針に関わるため

- 構築後
  率先して登録および助言・普及を依頼するため

広島大学リポジトリアドバイザ

- 2007年3月設置
- 学内外の各分野12名で構成
- 専門分野の研究動向・諸事情をヒヤリング
- コンテンツ・機能・著作権に関する助言・提言を依頼
- コンテンツを率先して登録・普及を依頼

要するに、味方になってもらう

予算はどこから？　（アンケート）

導入経費	今後の継続経費
• CSI経費のみ(15) • 学内経費のみ(2) • 両方(10)	• 学内経費(19) • 外部資金(4) • 未定(2) • その他(6)

何に予算を使うのか

- システム
  （ハードウェア・ソフトウェア）
- コンテンツ構築
  （人件費・広報）

コンテンツをむねとすべし

予算と労力のかねあい

- システムもコンテンツも自力で構築すれば、低予算でスキルもアップするが･･･
- システムに労力をとられてコンテンツ収集ができないくらいならシステムを外注した方がいい。
- コンテンツ収集が継続してできるようにシステム改修に予算をかける方法もあり。
- システムにだけお金をかけてコンテンツが集まらないのだけは避けたい。

どんな広報をしましたか（アンケート）

- 研究者への個別アプローチ (21)
- 教授会など部局単位での説明 (19)
- 図書館ウェブサイトでの広報 (17)
- 広報チラシ (13)
- 全学的な説明会 (7)
- 学長または図書館長名での文書送付 (5)
- 大学ウェブサイトでの広報 (4)
- その他

その他の広報（アンケート）

- ポスター・グッズ
- IR・OAに関する学内研究者向け悉皆アンケート（を装った啓蒙）

  http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/301
- 学長のメールマガジン
- 大学の中期計画・年度計画
- エレベータパネルに掲載
- 生協食堂に三角スタンド

HARPを利用してみよう！

HARPとは…広島県内の大学による共同の機関リポジトリ

（機関リポジトリ：教育研究成果物を収集・蓄積・保存し無償で学外へ発信する電子書庫）

ホームページから紀要論文などを読むことができます。広島大図書館ホームページからアクセス！！

アクセス方法は…
外部情報検索サービス（リンク集）
→HARP（広島県大学共同リポジトリ）

引き続き…

学生図書委員募集中！

図書館スタッフと一緒に、
図書資料の選書、書評の作成など
図書館運営をしてみませんか？
興味のある方は図書館受付まで。

先月の答え！わかったかな？
【疑問その①】
再生紙は何回まで再生できるか？
【答】通常 3～5回が限度といわれている。
【疑問その②】
排出される温室効果ガスの量をどうやって測る？
【答】実際には測定していない。国際機関 IPCC のガイドラインに基づいて机上で計算されている。
【疑問その③】
メタン・ハイドレードって？
【答】天然ガスが氷の中に閉じ込められシャーベット状になったもの。石油に代わるエネルギー源として期待されている。

詳細は 1.3 号図書館文庫コーナー 030 PEI『いまさら人に聞けない「理科」の疑問』を見てね！

今月の脳内ビタミン剤

・書　　名：『使命と魂のリミット』
・著　　者：東野　圭吾【著】
・出　版　社：新潮社
・所蔵図書館：1・3号館、呉分館
・所蔵場所：図書コーナー
・請求記号：913.6||H

過去にしがらみを持つ人々の思惑が、
絡まり合い、ある事件へと繋がっていく…。
医療現場を舞台に使命とは何か、それを全うするために生じる犠牲にいかに立ち向かっていくか。
自分の使命を知った人間の強さに心突き動かされます！！

HUSCAP のねらい

1. 図書館蔵書としての電子コレクション構築
本学の研究成果を図書館資料として大切に保管し、後世へ継承します。

2. オープンアクセス化による Visibility アップ
無料オンライン公開により、より多くの読者に、皆さまの研究成果を届けることができます。

物理学分野について、無料でオンライン公開された論文は、そうでない論文よりも被引用率が 5.6 倍高いという統計結果が公表されています。
(Stevan Harnad. Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals. D-Lib Magazine, v.10, no.6 (June 2004)
http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html)

海外では Elsevier, IEEE, Springer, Wiley 等大手出版社を含む 91%のジャーナルが、掲載論文を大学サイトで公開することを許容しています。(ただし、電子ジャーナル版 PDF の公開は認めず、著者原稿の公開を認めている出版社が多いのが現状です。)

一番効果的だった広報は（アンケート）

- 研究者への個別アプローチ　(15)
- 教授会など部局単位　(4)
- 大学の中期計画・中期目標　(2)
- 紀要編集委員会への広報　(1)

教員へコンテンツ提供を求める:その1

説明会の開催

- 教授会ならば、10分程度割込む
- 一般参加は期待薄
  （個別に参加をよびかける）
- 最初（何をするのか）と
  最後（何をお願いするのか）をはっきりと

教員へコンテンツ提供を求める:その2

個別にコンタクトをとる

- 教員の著作リストを持参し、登録できるものの許可だけもらう
- 知り合いの先生は必ず攻める
- キーパーソン

教員へコンテンツ提供を求める:その3

押さえておきたいポイント

- 専門用語は使わない
- 大学のメリットは言わない
- 研究者のメリットについても「メリット」とは言わず、「図書館の狙い」と言う。
- 理系には発信を、文系には保存を
- 著作権についてはあっさりと、でもちゃんとしてるぞというところを見せる
- 分野ごとに具体的な登録例を見せる

紀要編集委員会に提供を求める　その1

- 著作権規程の整備を勧める
- 最新号から　→　印刷段階からPDFを納品・ボーンデジタル
  バックナンバー　→　許諾は一括か個別か

例1）**著作権は著者**

〇〇紀要に掲載された論文の著作権は、当該著作物の著者に帰属する。ただし、〇〇紀要編集委員会は、〇〇紀要に掲載された論文を電子化し、公開することができる。

例2）**著作権は紀要編集委員会**

〇〇紀要に掲載された論文の著作権は、〇〇紀要編集委員会に帰属する。ただし、著作者は著作権が学会に帰属する著作物を自ら利用することが出来る。

紀要編集委員会に提供を求める　その2

- 発信･保存　と　コスト削減を呼びかけ
- ILLの件数を出すのも効果的

広島大学ILL受付件数2005-6

順位	雑誌名	受付回数
1	日本新生児看護学会講演集	554
2	広島大学心理学研究	380
3～5	日本新生児看護学会誌ほか	
7	広島大学教育学部紀要　第1部	153
8	広島大学教育学研究科紀要　第3部	141
9	総合保健科学	127
9	広島大学教育学部紀要　第2部	127

運営体制の課題（アンケート）

- 人の問題
  -人事異動 (7)
  -担当以外の無関心・人材育成 (6)
  -人員の確保 (3)
- 効率的なコンテンツ収集 (2)
- 他の業務との関わり (1)
- 費用の問題 （1)
- 教員組織の形成 (1)

その他の課題（アンケート）

- システム・ソフトウェアの選択肢が少ない
- 知識不足
  （Java, xml, PDF, 著作権、メタデータ、etc）
- 自発的な登録がない
  （評価システムと連携するとさらに）
- 英語

継続運営のために有効なこと（アンケート）

- 研究者と直接話すこと
- 運営体制をしっかり固めること
- 研究者の大半は無関心・図書館のイニシアチブに懸かっている。
- ノウハウの継承
- 機関の規模や特色によって手段は異なる。（小規模には小規模のよいところ）
- 活用されているというフィードバック
- 今できることから始めてもいい

継続運営のために有効なこと

- 何のためにリポジトリを作るのか、自学のリポジトリで何を実現するのかということに時々立ち返る。

- ネットワークを有効に利用する。
  研究者・同業者とのつながりを大事に。

- 何らかの喜びを見つけて楽しくやる。

参考

- 実務のための関連資料 (DRF wiki)
  http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Documents

- 運用指針一覧 (DRF wiki)
  http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?%E9%81%8B%E7%94%A8%E6%8C%87%E9%87%9D%E4%B8%80%E8%A6%A7

- 学術機関リポジトリ構築連携支援事業　基本文献
  http://www.nii.ac.jp/irp/archive/basic/

- 学術機関リポジトリ構築連携支援事業　翻訳資料
  http://www.nii.ac.jp/irp/archive/translation/

- Building Repositories (Repositories Support Project：JISC)
  http://www.rsp.ac.uk/repos/